

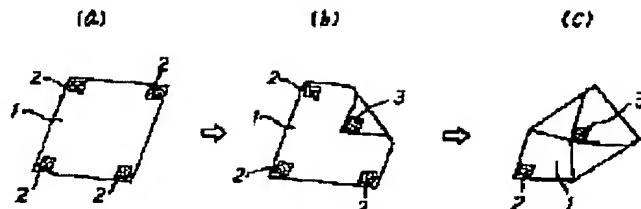
ANTIMICROBIAL CLOTH

Patent number: JP8337906
Publication date: 1996-12-24
Inventor: SAGARA MINORU
Applicant: MATSUI MFG CO
Classification:
- **international:** A41D13/08; A41B15/00
- **european:**
Application number: JP19950140377 19950607
Priority number(s): JP19950140377 19950607

Report a data error here**Abstract of JP8337906**

PURPOSE: To produce an antimicrobial cloth by which a door knob can be tentatively covered when forming it as a bag by using fibers containing an antimicrobial agent to form rectangular cloth and providing the cloth with detachable stoppers along the three peripheries and closing the cloth in the bag.

CONSTITUTION: Fibers impregnated or kneaded with an antimicrobial agent are used to form a rectangular cloth 1 and cloth-stoppers 2 is fixed respectively to three corners of the cloth and these three corners are mutually folded to form a bag. For example, a hand is inserted into the bag as a tentative glove or a public telephone set is covered with the bag.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-337906

(43)公開日 平成8年(1996)12月24日

(51)Int.Cl.⁶

A 41 D 13/08
A 41 B 15/00

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

A 41 D 13/08
A 41 B 15/00

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全3頁)

(21)出願番号 特願平7-140377

(22)出願日 平成7年(1995)6月7日

(71)出願人 000146076

株式会社松井製作所

東京都新宿区歌舞伎町2丁目3番21号

(72)発明者 相良 実

東京都新宿区歌舞伎町2丁目3番21号 株式会社松井製作所内

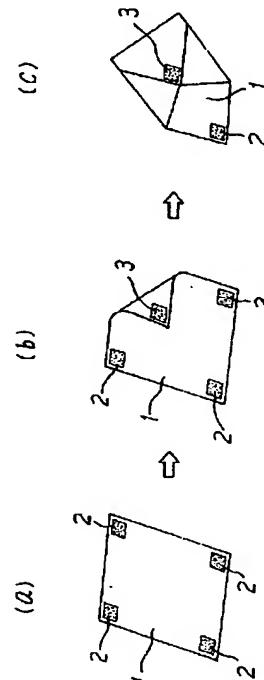
(74)代理人 弁理士 杉村 晓秀 (外5名)

(54)【発明の名称】 抗菌クロス

(57)【要約】

【目的】 方形の抗菌クロスの3方のコーナーを止め合わせ手段で止め合わせて袋状部を形成することにより、対象物に被せたり、手を差し込んだりして直接手が触れないようにする。

【構成】 抗菌剤を浸透若しくは練り込んだ繊維で形成した方形のクロス1により構成し、3個のコーナー部を互いに折り合わせて袋状にするよう3個のコーナー部に着脱自在の止め合わせ手段2、3を設けたり、3個のコーナー部を予め互いに縫い合わせて袋状に形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 抗菌剤を浸透若しくは練り込んだ繊維で形成した方形のクロスにより構成し、3個のコーナー部を互いに折り合わせて袋状にするよう3個のコーナー部に着脱自在の止め合わせ手段を設けたことを特徴とする抗菌クロス。

【請求項2】 前記クロスをハンカチとし、4個のコーナーを対角線のほぼ中心に折り込んで1/2の大きさにして着脱自在の止め合わせ手段によって止め合わせ可能にし、更に、この1/2の大きさの折り込みハンカチの状態で3個のコーナーを互いに折り合わせて袋状にするよう着脱自在の止め合わせ手段を設けるとともに、1/4の大きさに折り疊んだ状態で3個のコーナーを互いに折り合わせて袋状にするよう3個のコーナー部に着脱自在の止め合わせ手段を設けた請求項1記載の抗菌クロス。

【請求項3】 前記着脱自在の止め合わせ手段をマジックテープ（登録商標）手段とした請求項1又は2記載の抗菌クロス。

【請求項4】 抗菌剤を浸透若しくは練り込んだ繊維で形成した方形のクロスにより構成し、3個のコーナー部を予め互いに縫い合わせて袋状に形成したことを特徴とする抗菌クロス。

【請求項5】 前記クロスをハンカチの約1/2～1/4の大きさとした請求項1又は4記載の抗菌クロス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、不特定多数の人の手が触れる部分例えば、公衆電話の受話器、又はドアのノブ等を一時的にカバーすることができる抗菌クロスに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来このような公衆電話の受話器、又はドアのノブ等を一時的にカバーすることができる抗菌クロスは存在しなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、不特定多数の人の手が触れる公衆電話の受話器、又はドアのノブ等を一時的にカバーすることができ、雑菌による汚染を防止できる抗菌クロスを得るにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この目的を達成するため、本発明抗菌クロスは、抗菌剤を浸透若しくは練り込んだ繊維で形成した方形のクロスにより構成し、3個のコーナー部を互いに折り合わせて袋状にするよう3個のコーナー部に着脱自在の止め合わせ手段を設けたことを特徴とする。

【0005】 更に、本発明は、抗菌剤を浸透若しくは練り込んだ繊維で形成した方形のクロスにより構成し、3個のコーナー部を予め互いに縫い合わせて袋状に形成し

たことを特徴とする。

【0006】

【作用】 本発明抗菌クロスによれば、閉じ合わせた袋状部分を、例えば、公衆電話の受話器に被せたり、袋状部分に手を差し込み簡易手袋として使用してドアノブを握るようにする。

【0007】

【実施例】 次に、図面につき本発明の好適な実施例を説明する。

10 【0008】 図1は、例えば、ハンカチの大きさの約1/2～約1/4の大きさの本発明による抗菌クロス1を折り疊んでいく段階を示す。

【0009】 この抗菌クロス1は、例えば、ヒノキチオール、キトサン、スクワラン等の抗菌剤をクロスに浸透させて形成するか、又はこれら種類の抗菌剤を練り込んだ繊維で織成した布地で形成する。

【0010】 図示の実施例では、ハンカチの約1/4の大きさの抗菌クロスの一方の側面の各コーナーに、止め合わせ手段としてのマジックテープ手段の例えば、ループ面細片2（又はフック面細片3）を縫い付け、反対側の側面にマジックテープ手段のフック面細片3（又はループ面細片2）を縫い付けておく。

【0011】 この実施例では、対角線方向に對向するコーナー相互を折り合わせ、マジックテープ手段のループ面細片2とフック面細片3とにより閉じさせる。最後に、残りの2個のコーナーのうちの1個のコーナーを、先に折り合わせた部分のフック面細片3の上に折り合わせ、ループ面細片2で閉じ合わせることにより、袋状部分を形成する。

【0012】 本発明によれば、例えば、マジックテープ手段のような止め合わせ手段で使用の際に袋状部分を形成するのではなく、予め袋状部分を生ずるよう3個のコーナーを縫い合わせた抗菌クロスとすることもできる。

【0013】 本発明の抗菌クロスはハンカチ用クロスとすることもできる。この場合、4個のコーナーを対角線のほぼ中心に折り込んで1/2の大きさにして着脱自在の止め合わせ手段によって止め合わせ可能にし、更に、この1/2の大きさの折り込みハンカチの状態で3個のコーナーを互いに折り合わせて袋状にするよう着脱自在の止め合わせ手段を設けるとともに、1/4の大きさに折り疊んだ状態で3個のコーナーを互いに折り合わせて袋状にするよう3個のコーナー部に着脱自在の止め合わせ手段を設けておく。

【0014】 止め合わせ手段としてマジックテープ手段ではなく、スナップホック手段、又はボタンーボタンホール手段、又は安全ピン、又は閉じ合わせ可能な他の手段を使用することもできること勿論である。

【0015】 図2の(a)は、本発明による抗菌クロスの袋状部分を電話の受話器に被せる直前の状態を示し、図2の(b)は本発明による抗菌クロスの袋状部分を公

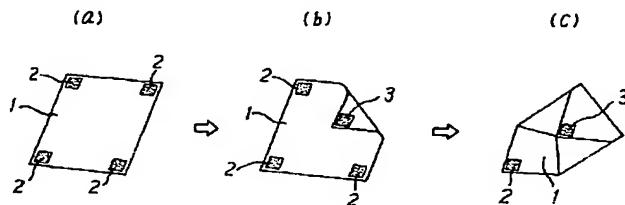
衆電話の受話器に被せる直前の状態を示す。

【0016】図3の(a)は、本発明による抗菌クロスをドアのノブを回す際に袋状部の中に手を差し込み簡易手袋して使用する状態を示し、図3の(b)はスリッパに袋状にした本発明による抗菌クロスを挿入する直前の状態を示す。

【0017】

【発明の効果】 本発明抗菌クロスによれば、簡便かつ安価な構成で、袋状部分を不特定多数の手が触れる部分例えば、公衆電話の受話器に被せたり、又は袋状部分に手を差し込み簡易手袋としてドアノブ等の手が触れる部分に直接手が触れないよう、また公衆電話の耳当て部分に耳が直接触れないようにすることができます、雑菌による汚染を防止できる。

【図1】



【図2】



【図3】

